

肺炎球菌ワクチン接種

今年は新型インフルエンザの流行もあり、高齢者に拡大すれば重症化につながり、合併症のリスクも高まってきます。

インフルエンザの合併症で怖いもののひとつに「細菌性肺炎」があり、特に65才以上は肺炎による死亡率が高くなっており肺炎球菌ワクチン接種の有効性が高まっています。

肺炎球菌ワクチン接種費用の一部補助を行います。

平成21年11月1日から実施

補助要件

補助対象者	建築国保の被保険者で過去に肺炎球菌ワクチン接種を受けたことがない方	期間	通年
補助額 <small>(年齢は接種日の年齢です。)</small>	75歳以上の人	8,000円(限度)	
	65歳以上75歳未満の人	5,000円(限度)	
	65歳未満の人が医師の判断により接種を行う場合は、2,100円(限度)の補助となります。		
※ 市町村からの補助がある場合は、補助額を差引いた本人負担のみの補助です。			
回数	生涯1回	接種場所	県内医療機関(接種する場合は事前に予約が必要です。)
補助金の申請	・接種後、所属の支部で領収書等を添えて手続きを行ってください。 ・本部で申請受理後、後日支部経由で補助金が支給されます。		

■注意事項■

- すべての肺炎を予防するワクチンではありません。
- この予防接種は、平成21年10月現在厚生労働省の見解によれば生涯に1回のみとなっております。接種に際しては、医師からの説明を受け肺炎球菌ワクチンの注意事項をよく理解して受けてください。
- 全国的にワクチンが少ない状況にあり、希望してもすぐに接種できない場合もありますので、医療機関の指示に従ってください。

肺炎球菌ワクチン接種について

肺炎球菌とは	この肺炎球菌は、体力が落ちている時やお年寄りになってインフルエンザなどにより免疫力が弱くなってくると肺炎などの病気を引き起こします。
肺炎球菌ワクチンとは	肺炎球菌によって引き起こされるいろいろな病気(感染症)を予防するためのものでいわゆる高齢者の肺炎で最も多いといわれている肺炎球菌に有効なワクチンです。 肺炎球菌ワクチンは、1回の接種によりその効果は5年以上残ります。
肺炎球菌ワクチン接種に際しての注意点	ワクチン接種後の副反応(副作用)として、注射部位の腫れや、痛み、ときに軽い熱がみられることがありますが、日常生活に支障が出るほどのものではありません。 1~2日で消失します。多くのデータにより安全に接種できることが確認されています。
接種したほうが良い人	インフルエンザワクチン同様に高齢者が主体です。 脾臓摘出以外の人でワクチンを接種することが好ましいと考えられる人(米国の勧告)は、高齢者(とくに65歳以上の方)、慢性呼吸器疾患、心不全、腎不全、肝硬変、コントロール不良の糖尿病、臓器移植を受ける人または受けた人、多発性骨髄腫などの血液疾患、後天性免疫不全症などの人です。
肺炎球菌ワクチンの接種時期	この予防接種は1年中いつでもできます。ただし、インフルエンザなどのワクチン接種時期から1週間以上あける必要があります。